

これからの地方自治を創る実務情報誌

月刊

# ガバナンス

—「ガバナンス」は共に地域をつくる共治のこと

1999年6月16日第3種郵便物認可  
2021年6月1日発行（毎月1回1日発行）通巻266号

2021

No.242 June

6

GOVERNANCE



【自治・地域のミライ】

## 齊藤 栄

静岡県熱海市市長

特集

教訓・挑戦・展望  
コロナ禍の自治体議会

キャリサポ  
特集

SDGsを自治体に  
“実装”する

特集

# コロナ禍の自治体議会

## 教訓・挑戦・展望

14	自治体議会改革の第2ステージ／江藤俊昭
17	議会基本条例の制定・検証・改正の特徴と展望／長野 基
20	コロナを契機に首長と議会の新しい関係を／福嶋浩彦
23	コロナ禍の議会運営の展望／新川達郎
26	コロナ禍の議会報告会・意見交換会の論点整理／牧瀬 稔
29	コロナ禍での財政運営と自治体議会／小西砂千夫
32	議員のなり手不足解消の展望／寺島 渉
35	コロナ禍における地方選挙の特徴と選挙制度改革の方向性／河村和徳
38	ダイバーシティと自治体議会／吉田利宏
<b>取材レポート</b>	
88	新版図の事情——縮む社会の現場を歩く <sup>134</sup> ／葉上太郎
98	「天空の丘」は消えるのか——11年目の課題・川俣町山木屋（上）——原発事故、続く模索 <sup>15</sup>
124	現場発！自治体の「政策開発」 <sup>94</sup> 里親会母体のNPO法人で支援と養育力の向上を図る——包括的な里親家庭支援事業（静岡市） 議会改革レポート「変わるか！地方議会」 <sup>241</sup> 4年間の実行計画「未来への羅針盤2023」を定期的にチェックし、着実に実現へ——神奈川県横須賀市議会
102	童門冬二の日本列島・諸国賢人列伝 <sup>240</sup> 小早川隆景（二） 父に折られた一本の矢

特集

### コロナ禍の自治体議会

——教訓・挑戦・展望

江藤俊昭 大正大学社会共生学部  
公共政策学科教授

地方議会改革の展開の「取り上げ方（時代の切り方）」＝構図を見る目が必要だ。議会改革の急展開を「本史への突入」、それ以前の改革を「前史」として理解している。その突入への画期は、議会基本条例の制定である。



1 自治・地域のミライ ③

齊藤 栄・静岡県熱海市長

「温泉観光地」として生き残るため持続可能な仕組みをつくっていく

キャリアサポ特集

# SDGsを自治体に「実装」する

〈インタビュー〉神奈川県理事(いのち・SDGs担当)・

山口健太郎さんに聞く

42 多様な主体との「パートナーシップ」でSDGsを強力に推進

〈取材リポート〉

45 SDGsの認知度100%に向けて区一丸で取り組む／東京都江戸川区

48 SDGsの視点を行政評価に取り入れ、相対評価などを実施／長野市

管理職って面白い！⑥3 ビッグファイブ／定野 司

「後藤式」知域に飛び出す公務員ライフ⑦5 公務員がアカデミックな活動をする意義／後藤好邦

誌上版！「お笑い行政講座」②7／江上 昇

自治体DXとガバナンス③／稲継裕昭  
働き方改革その先へ！人財を育てる「働きがい」改革②7／高嶋直人

未来志向で考える自治体職員のキャリアデザイン②7／堤 直規  
そこが知りたい！クレーム対応悩み相談室②7／関根健夫

宇宙的公務員 円城寺の「先憂後楽」でいこう！②7／円城寺雄介

次世代職員から見た自治の世界③／菅 花穂

「三方よし」の職場づくり③9／高澤良英

誰もが「自分らしく生きる」ことができる街へ②7／阿部のり子

新型コロナウイルス感染症と政策法務③／澤 俊晴

地方分権改革と自治体実務——政策法務型思考のススメ①33／分権型政策法務研究会

連載



齊藤栄・静岡県熱海市市長(58)。コロナ禍の先を見据えて「持続可能な温泉観光地」づくりを進める。背景は熱海の象徴ともいえるサンビーチ。その奥のお宮緑地には自慢の「ジャカラランダ遊歩道」がある。

70

Governance Topics

職員本を読み解き、深め、活かす！——自治体職員書籍のABD+出版記念イベント

Governance Focus

118

急速に進んだ集落過疎化、被災体験の風化……  
——熊本地震から5年。南阿蘇村で浮かび上がる課題と展望／葉上太郎

連載

- 12 ザ・キーノート⑩／清水真人
- 92 自治・分権改革を追う⑭⑮／青山彰久
- 94 新・地方自治のミ・ラ・イ⑨⑩／金井利之
- 96 地域発！マルチスケール戦略の新展開③／大杉 覚
- 101 市民の常識VS役所のジョウシキ⑩⑪／今井 照
- 103 危機の中から——日本の社会保障と地域の福祉⑫⑬／野澤和弘
- 100 自治体の防災マネジメント⑥⑦／鍵屋 一
- 102 市民と行政を結ぶ情報公開・プライバシー保護⑫⑬／奥津茂樹
- 104 公務員の人・間・模・様⑭⑮／金子雅臣
- 116 今からはじめる！自治体マーケティング③／岩永洋平
- 122 生きづらさの中で⑮⑯／玉木達也
- 123 議会局「軍師」論のススメ⑥⑦／清水克士
- 128 「自治体議会学」のススメ⑭⑮／江藤俊昭
- 130 From the Cinema その映画から世界が見える③
- 132 「狼をさがして」／綿井健陽
- 132 リーダーズ・ライブ러리
- 「著者に訊く！／『社会的弱者にしない自治体法務』鈴木秀洋」

カラーグラフィック

5

技・匠⑭⑮／大西暢夫  
現役の長老が室町時代以来の味を伝える  
——政所茶栽培（滋賀県東近江市奥永源寺地域）

8

わがまちの魅どころ・魅せどころ⑰⑱  
広い空と輝く緑、産業遺産、そして熱い温泉。  
四季折々の感動エリアによるこそ／北海道上士幌町

137

山・海・暮・人⑲⑳／芥川 仁  
先祖から引き継いだ田んぼをいつものように耕す——熊本県球磨郡球磨村神瀬  
生業が育む情景／先人の知恵が息づく農業遺産③

141

伝統的な傾斜地農耕システム——徳島県にし阿波地域（美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町）  
人と地域をつなぐ——ご当地愛キャラ⑩⑪／中野大好きナカノさん（東京都中野区）

144

クロース・アップ／熊本地震から5年が過ぎても——／南阿蘇鉄道。絶景路線の復旧は道半ば

73

DATA・BANK2021

自治体の最新動向をコンパクトに紹介！

特別企画

108

市と社会福祉法人の協働で  
無縁遺骨問題などの対応に乗り出す  
——神奈川県座間市

発注側と受注側双方の視点から行政のデジタル化を考えた

自治体×ベンダー  
自治体システム導入の  
「そういうこと  
だったのか」会議

NPO法人デジタルガバメントラボ・著  
ぎよこせい / 2420円 (税込)  
012009530431



デジタル庁創設を控え、加速する行政のデジタル化。しかし、デジタル化プロジェクトは難所の壁が待ち受け、100%の成功はないとされる。発注側・受注側の垣根を越え、ITベンダーとパートナー関係で進まなければならない。

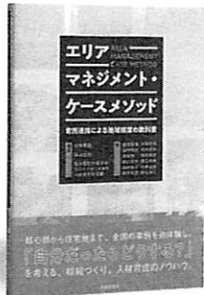
そこで本書では、発注側の自治体と受注側のベンダーが集結し、誌上座談会を敢行。ベンダーが自治体を見る視点、自治体の情報システム部門の立ち回り方、迫る情報システム標準化のポイントなど、多彩な視点が散りばめられている。デジタルガバメントの実現に向けて官民共創で取り組む著者らによる、赤裸々トークなので、楽しみながら読むことができる。

ケースを追体験し、エリアマネジメントのノウハウを学ぶ

エリアマネジメント・  
ケースメソッド

官民連携による地域経営の教科書  
保井美樹・泉山聖威・日本都市計画学会・エリアマネジメント人材育成研究会・編著  
学芸出版社 / 2860円 (税込)  
075034300811

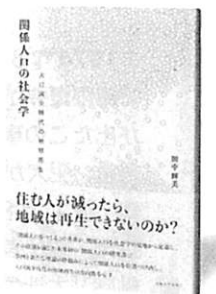
近年、官民連携による地域再生の手法として各地で取り組みが進むエリアマネジメント。本書は特に商店街、住宅地、地方都市など暮らしに身近な地域に焦点を当ててユニークな事例を集め、推進する組織や仕組みとともに整理したケースブックだ。分担執筆した研究会では、エリアマネジメントに求められる人材像とその育成方法を検討。そこで見えてきた「自ら考え、動くことができる」人材を育てるため、実際に起きたケースを材料に追体験し議論するMBAの教育手法を参考に、企画・編集されたのが本書だ。「自分だったらどうする？」を考えながら、ぜひ現場で活用してほしい。



地域課題が解決され続けるという過程の連続こそが地域再生

関係人口の社会学  
人口減少時代の地域再生

田中輝美・著  
大阪大学出版会 / 3520円 (税込)  
0668771614



ローカル・ジャーナリストとして「関係人口」を追求してきた著者は大学院博士後期課程に進学。関係人口の定義と、関係人口が地域再生に果たす役割について社会学のアプローチで紡ぎ出したのが本書だ。

関係人口とは「特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者」と定義。鳥根県海士町、江津市、香川県まんのう町の事例を基に、関係人口がいかに地域再生サイクルに関わっていったのかを描く。「地域において課題がなくなることはない。その課題に不断に向き合う主体が形成され、地域課題が解決され続けるという過程の連続こそが地域再生である」と指摘。地方創生に関わる自治体職員にとって見逃せない一冊だ。

政策サイクルの中に決算審査・予算審査を位置づけよう

自治体議員が知っておくべき  
政策財務の基礎知識  
予算・決算・監査を  
政策サイクルでとらえて財政に  
コミットできる議員になる

江藤俊昭・新川達郎・編著  
第一法規 / 3300円 (税込)  
012002030694

地方財政を扱った書籍は多いが、本書では地方議員・議会が地方財政にいかにかかわっていくかに焦点を当てた。政策財務の基礎知識から始まり、予算に関する議会権限の範囲、予算審議のポイント、決算審議における留意点・着眼点などを詳述。そして、政策サイクルの中に決算審査・予算審査を位置づける必要性を強調する。

現職議員や元議員による実践レポートも。中でも桑島健也氏(元埼玉県所沢市議)による決算・予算審査に臨む心構え、予算修正の勘所、議選監査の実践的活用についての記述はリアル感たっぷり。議員は「瞬発力」の養成を」と編者は呼びかける。



# 多様な住民一人ひとりの危機を守り 社会的弱者にしないために

「弱者」という言葉を使うのは逡巡もあつた。弱者はもともと弱者として存在しているわけではなく、社会がつくり出すものだからだ。だが、医療モデルから社会モデルへの転換という問題提起も含めて『社会的弱者にしない』というタイトルにした」と、著者の鈴木秀洋さんは説明する。鈴木さんは東京都文京区職員から大学に転じた研究者。職員時代には、法務・裁判・秘書・ジェンダー・危機管理・児童福祉などの分野を担当し、法務を土台に課題に向き合ってきた。その後は研究者として実務経験を学問的に掘り下げ、広げ、課題解決の道を模索している。実務家、研究者として鈴木さんに一貫しているのは「行政が向き合うのは抽象的な『住民』ではなく、多種多様な背景・環境・考え方をを持った生身の一人ひとり。その人たちが安全安心に生きる、日々の暮らしを守っていくのが行政の役割」という思いだ。本書は、その多様な個人々の権利利益を守るための「危機管理行政法務」という領域をめざしている。

各章は児童虐待やDV、ジェンダー、LGB TQ、高齢者や障害者の差別、災害時要配慮者などの地域課題ごとに分けられ、豊富なデータも交え制度の概要や実務などを解説。さらに①行政法・地方自治法の再構築、②危

## 著者に訊く!

虐待・DV・性差別・災害等から市民を守る

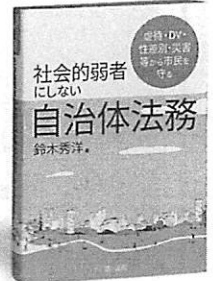
# 社会的弱者に しない自治体法務

第一法規 / 3960円(税込み) ☎0120・203・694

## 鈴木秀洋

すずき ひでひろ

日本大学危機管理学部准教授(行政法・地方自治法等担当)。東京都文京区総務課文書係、東京23区法務部、文京区総務課課長補佐(秘書総括)、危機管理課長、男女協働課長、子ども家庭支援センター所長などを経て、2016年から現職。主な著書として『子を、親を、児童虐待から救う』(編著)、『行政法の羅針盤』、『自治体職員のための行政救済実務ハンドブック改訂版』など。



機管理、③当事者中心主義、④社会モデルとしての社会的弱者——という四つの視座から横断的に課題をとらえ直し、立法・制度改善、解釈・運用などを提言している。特に①は▽目の前の個人々の権利利益が保障されているかを第一義的に考え行政法を再構築する▽国側の視点より住民に身近な市区町村の視点を出発点に課題をとらえる▽危機管理の視点から行政法規を再構成する——というもので、伝統的な行政法・地方自治法の制度設計を転換させようという意欲的な問題提起だ。「実務家から研究者になった私にできるのは、現場と法律をつなぎ、橋渡しすること。以前ゼミ生が『知識は優しさである』と学んだ」と話してくれたが、知って学ぶことで世の中を見る目線が変わる。公務員はある意味で恵まれた標準や普通を身につけている人。法制度はそういう人たちが大多数を考えて机上でつくる。だが、実際の住民は一括りではなく多様で、その一人ひとりに対応することが本来の自治体の役割だ。本書ではそういう視点から何をしていくべきか具体的に示した。自分の仕事が社会的弱者を生み出していないか、救えるのは自分たちだという意識で、目の前の仕事をもう一度見直してほしい」と鈴木さん。自治体の現場に向き合い続けてきた鈴木さんが「まだ不完全だが、現時点での集大成」という580頁の本書には、自治体、特に市区町村職員にとって気づきや学びが詰まっている。ぜひ活用してほしい。(M)

今月は久しぶりに（感染対策をして）対面での取材ができた。面白い話が聞けたのもあり取材後、充実感があった。オンラインと何が違うのか？と考えて、気づいたのは「話が弾む」感覚。会話のテンポや間、相手の呼吸のつかみ方はやはりリアルにはかなわない。その「日常」が戻ってくるのを願っている。（三）

今号はSDGsの企画で三つの自治体取材した。いずれも全庁的に取り組んでおり、一種「熱気」のようなものまで感じられた。国際的な課題解決は、地域から。SDGsが掲げる目標の相性もあって、自治体の果たす役割は大きい。それはそうと、まずは私もSDGsを「自分事化」しなければ。（草）

海外でのボランティア活動、起業、自治体職員への転職……若くして自治体議員になった人の第2の人生だ。最近、知り合いの議員が議長に就任するニュースが相次いだ。活躍を願う一方で、気になるのは議員OBの生き様。今号で執筆してもらった寺島渉氏のように後進育成に力を注ぐ人物もいる。（鉄）

●本誌は、特定非営利活動法人・ITコーディネータ協会の認定誌です。お問い合わせは弊社販売担当（☎0120-953-431）までお願い致します。

**読者アンケートのお願い**

小誌では、誌面をより充実させ、読者の皆様の期待に応えられる内容にしていきたいと、読者アンケートを実施しています。いただいたご意見・ご要望などは、積極的に誌面に反映させていただきますので、ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。とじ込みハガキに必要事項をご記入のうえ、編集局宛お送りください。毎月5名の方に粗品を差し上げます。

月刊 **ガバナンス** 6月号

2021年6月1日発行 No.242

編集・発行 **ぎょうせい**

東京都江東区新木場1-18-11 (〒136-8575)

URL : <https://gyosei.jp>

電話 販売 0120-953-431

E-mail : [business@gyosei.co.jp](mailto:business@gyosei.co.jp)

広告 03-6892-6589

編集 03-6892-6540

E-mail : [jichi@gyosei.co.jp](mailto:jichi@gyosei.co.jp)

印刷 大日本印刷株式会社

定価 1,100円 (10%税込)

年間購読 12,540円 (10%税込・送料込)

2年購読 22,440円 (10%税込・送料込)

3年購読 29,700円 (10%税込・送料込)

©本誌掲載記事の無断転載および複製を禁じます。

Printed in Japan 2021

ISSN 1346-4248

7月号予告

**特集**

**コロナ後を見据えたまちづくりへの模索**

- スーパーシティ・スマートシティがめざすもの / 中川雅之
- 住民起点のスマートシティへ / 松田智生
- W/AコロナとSDGs未来都市 / 関 幸子
- これからの都市とエリアマネジメント / 保井美樹
- 都市政策にいま何が求められているか / 野澤千絵
- これからの都市モビリティとコンパクトシティ / 谷口 守
- W/Aコロナの健幸都市づくり / 久野譜也
- 都市と農村漁村の関係をどう再構築するか / 坂本 誠

**「ガバナンス」バックナンバー**

2021年5月号

**特集**

自治体ガバナンスの20年

北川正恭 / 富野暉一郎 / 磯崎初仁 / 長畑 誠 / 上山信一 / 石原俊彦 / 坪郷 實 / 佐藤 淳

**キャリアサポ特集**

男性職員も育休を！

2021年4月号

**特集**

コロナ禍：自治体・新年度の展望

大森 彌 / 今井 照 / 牧原 出 / 広井良典 / 佐藤 徹 / 定野 司 / 杉岡秀紀 / 小田切徳美 / 中村 健

**キャリアサポ特集**

あらためて公用文を学ぼう

2021年3月号

**特集**

東日本大震災10年

——復興の到達点と課題

山崎 敦 / 姥浦道生 / 河田恵昭 / 佐藤翔輔 / 室崎益輝 / 鍵屋 一 / 牛山久仁彦 / 矢守克也 / 岡田広行

**キャリアサポ特集**

新型コロナウイルスのリスクアセスメント術

2021年2月号

**特集**

「新しい日常」における首長・議員と職員、住民の関係

金井利之 / 新川達郎 / 白鳥 浩 / 阿部昌樹 / 後房雄 / 役重真喜子 / 岩崎泰典 / 奥津茂樹 / 岩崎弘宣

**キャリアサポ特集**

非接触型住民サービスの最前線

2021年1月号

**特集**

W/Aコロナ時代の自治体職員

稲継裕昭 / 富野暉一郎 / 津軽石昭彦 / 前神有里 / 蒲原大輔ほか

**キャリアサポ特集**

キャリアデザインを描くヒント

2020年12月号

**特集**

自治体職場・職員と新型コロナ

福嶋浩彦 / 今井 照 / 嶋田暁文 / 西尾 隆 / 浦崎太郎 / 瀧口樹良 / 澤 俊晴 / 田口一博 / 清水克士

**キャリアサポ特集**

民間高度専門人材をわがまちに！